

校番	44	ホームルーム活動	○	生徒会活動	学校行事	別紙様式2
----	----	----------	---	-------	------	-------

令和3年度生徒指導サポート実践校「特別活動の取組事例」

学校名	広島県立黒瀬高等学校	校長	吉川 由縁	生徒指導主事	藤本 倫考
取組事例名		『生徒主体で考える生徒会活動』			
取組における育てたい資質・能力					
人間関係形成		社会参画		自己実現	
「コミュニケーション能力」	3	「主体性・積極性」	1	「計画・挑戦」	2
取組のねらい					
生徒の主体的な活動を通して、生徒自らが課題を発見し、解決するといった主体的な学びを推進し、自己の行動が管理でき、人を大切にできる心（福祉の心）を育む。					
取組の具体的内容			取組の創意工夫 『キーワード 自主性・主体性』		
<p>(1) 黙食の啓発</p> <p>毎日各クラスの保健委員が昼休憩時に「黙食」と書かれたポスターを教室前面に掲示した。また放送部と連携して、黙食のアナウンスと共に10分間音楽を流し、会話をせずに食事を優先するよう呼びかけている。</p> <p>(2) 各行事における感染対策</p> <p>文化祭、体育祭、クラスマッチなど実施計画段階でどのように感染対策を行うか事前に協議して立案した。</p> <p>体育的行事においては、プレー時以外はマスク着用し、手指や用具の消毒、待機や応援の時はソーシャルディスタンスを取るなど計画した。</p> <p>文化祭においては、校内での実施に代わり、町内にある文化ホールにて実施した。ロビーに文化部の展示、生徒会執行部による折り鶴のモザイクアートを作成。ステージでは福祉科の手話歌、授業の成果発表など実施した。ステージではマスク着用での発表、ステージ上の人数を制限、文化委員による消毒や換気を行い、感染対策を徹底した。</p> <p>(3) 学校功労者への感謝状</p> <p>本校食堂に30年間勤められた方の退職に伴い、生徒への食堂利用を促すポスターを作成し、最終日には感謝状を贈呈した。</p>			<p>生徒発案の</p>  <p>のスローガンのもと生徒会執行部が中心となり、各クラス委員や部と連携し、学校全体で取り組むことができた。</p>  <p>今年度、刷新した文化祭では幕間での執行部による教員インタビューやステージ発表のグループごとに責任教員を当て、細かな連携を取るなど教員の協力を得ながら新しいものを一から作り上げた。</p> 		
取組の成果と課題					
<p>昨年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症の影響で多くの行事が中止や内容の変更を余儀なくされた。学びの機会が失われないために、教員側から課題を投げかけ、生徒が悩みながら協力してアイデアを出し合った。初めて取り組んだことも多く、試行錯誤しながら取り組む事も多かったが、一つ一つ形になるにつれ、お互いの努力や成果を見合うことができ、良い刺激になったのではないかと思います。今後は生徒自らが課題を見付け出せるよう教育環境を整備したい。</p>					